

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2024年 2月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2024年 2月 1日発行 通巻369号

千葉県連総会に参加を…

これからの2年間を決めましょう！

2月号 目次

・ 目 次	2
・ 定時総会開催案内	3
・ 1月理事会報告	4
・ 房総の山復興プロジェクト：富山登山道整備(ハイキング委員会)	8
・ 房総ハイキング(浪花～御宿)(ハイキング委員会)	10
・ 特集(続編)：ネパールトレッキング(海外委員会) + α	12
・ 2月・3月予定表	28

<訂正：3ヶ所>

先月号(1月号)のp.58の『<4> ロッジ分宿(4日目：10月28日)』の項で間違いがありました。訂正してお詫びいたします。(正)ヒマラヤ山荘 ← (誤)マナスル山荘
尚、千葉県勤労者山岳連盟ホームページには、訂正した報告文が掲載されています。(編集子)

個人情報があるので取り扱いには留意して下さい。

『山行報告』や『集会報告』などの投稿をお待ちしています！

その際の『書式』は、可能な限り次の通りをお願いします。

ワード、A4、横書き、MS 明朝、12ポイント、余白：上下左右各 25mm
写真などを挿入しても、別にお送りいただいても結構です。

『表紙用写真』も募集しています！(写真説明を添えてください)

毎月 **20日頃**を目処にメールでお送り願います。

<送付先> 機関誌委員会 廣木國昭委員長 danphiro@jcom.zaq.ne.jp
編集担当：安彦秀夫 mt25hm4abichan49@gmail.com

<表紙写真説明>

小浦海岸

2024年1月27日(土)、恒例の『房総ハイキング(これまでは房総ロングハイクと言っていました)』のひとこまです。

これまでに何度か計画されましたが、天候に恵まれず中止になっていました。今回は、その悪天候を吹き消すような好天になり、参加者50名(8会)が太平洋から吹く冷たい風を受けながらも楽しく歩けたようです。

ハイキング委員会メンバーによる数度の下見が報われた1日になったようです。青空が祝福しているようですね。準備に携わった委員の皆さんに感謝します。(編集子)

千葉県勤労者山岳連盟

第 58 期(2024 年度)・第 59 期(2025 年度)定時総会案内

加盟会 代表者・代議員各位

県連盟 理事各位

2024 年 1 月 31 日

千葉県勤労者山岳連盟

会 長 広木国昭

千葉県勤労者山岳連盟「規約第 6 条」にもとづき、下記のとおり

第 58 期(2024 年度)・第 59 期(2025 年度)の定時総会を招集いたします。

加盟会代表、代議員、県連理事、県連役員各位の参加をお願いします。

記

◆ 日 時： 2024 年 **3 月 2 日(土) 13:00~18:00**
(受付は 12:20 開始)

◆ 場 所： **船橋市塚田公民館 2 階講堂**

☆ 住 所：船橋市前貝塚町 601-1 (TEL:047-438-2610)

➤ 東武野田線『塚田駅』西口 徒歩 5 分

◆ 議 題： 1. 第 56 期(2022 年度)・第 57 期(2023 年度)

● 活動報告および会計報告

2. 第 58 期(2024 年度)・第 59 期(2025 年度)

● 活動方針および予算案説明

3. 千葉県連役員選出

4. その他

◆ その他： 事前に総会議案書をメールで送付します。

内容確認及び質疑書の提出・回答書の確認をお願いします。

印刷した総会議案書は、総会当日に会場で配布します。以上

『代議員』の登録を忘れずをお願いします。



・ 駅前にコンビニあり

(ミニストップ、セブンイレブン)。

・ 駐車場は無いので電車利用をお願いします。

・ 会場内で弁当を食べる程度はできます。

千葉県勤労者山岳連盟 2024 年 1 月 理事会議事録

議事録作成者：高橋芳恵（岳人あびこ）

日 時 2024 年 1 月 18 日（木） オンライン会議 19:00～20:40

参加者一覧（2024 年度）

県連理事		×	松宮（市川）	○	野田（かがりび）	×	深草（あびこ） （代）高橋
○	藺田（ちば）	○	西岡（ちば）	○	五木田（こまくさ）	○	羽鳥（東葛）
○	酒井（船橋）	○	田中（ふわく）	○	今井（茂原）	×	渡邊（松戸）
×	鈴木（まつど遠足）	○	小林（山翠会）	×	（仮）豊田 （らんたん）	○	戸石（民医連）
○	荒井（岳樺）						
県連役員		○	広木（会長）	-	野田（理事長）		
○	菅井（自然保護）	○	伊東（教遭）	○	安彦（海外）		
全国連役員		×	石川（副理事長）	×	山本（理事）		

○：出席、×：欠席 理事と役員兼務の場合は理事の方に記載

議 事

1. 理事長挨拶（野田）

新年あけましておめでとうございます。本年も県連活動にご協力宜しく申し上げます。新年早々、能登半島地震、羽田飛行機衝突事故など災害が続きました。3 月 2 日定時総会に向けての準備を役員会主体で行っています。理事の皆様においてもご協力をお願いします。

2. 役員会報告（広木）

1 月 11 日（木）オンライン役員会 13:00～15:00 開催

- 1) 来年度総会の準備について→『4. 役員会からの連絡』参照
- 2) その他→『3. 各委員会報告』参照

3. 各委員会報告

1) 教育遭難対策委員会（伊東）

①12 月 16 日「登山講習」2 回目を実施

場所：日和田山

内容：長短スリング・カラビナ・補助ロープ（7 点セット）を用いた確保技術、懸垂下降の訓練と検証

参加者：教遭委員 4 名、岳人あびこ 2 名、

マウンティンゴリラ登山学校講師 安村先生→助言をいただきました。

検証内容：スリングの本数と長さ、補助ロープの太さと長さ、カラビナの種類、簡易ハーネスの使い分け→途中で終了のため、4 月に 3 回目を予定

②12月25日教遭委員会開催

- ・次年度計画検討

③事故報告 2024年1月8日 山の会「岳樺クラブ」50代男性

屏風岩（岐阜県屏風山）で胸椎～腰椎3ヶ所圧迫骨折

2) 自然保護委員会（菅井）

- ・全国連から『全国自然保護講座』の6月開催の要請（打診）あり
全国連総会（2/17-18）後に詳細が決定し正式要請あり → 役員会で協議決定する
- ・クリーンハイク 『磯根海岸（プラスチックなど）』で実施予定

3) ハイキング委員会（田中）

- ・1/27（土）房総ハイキング（浪花～御宿）35名参加申込みあり
- ・房総の山復興PJ関連 富山登山道整備実施 1/16（3名）田中、羽鳥、野田

4) 組織委員会（野田）

2年毎に行っている各会の状況調査実施

提出期限：1月14日（日） → 未提出会は至急提出をお願いします。

提出先：組織委員会 戸石理事（民医連山を歩こう会）、野田

今後の予定：1月末委員会でまとめ → 2月理事会で説明 → 総会資料作成

5) 女性委員会（広木）

特になし

6) 海外委員会（安彦）

- ①ネパールトレッキング参加者17名全員が感想（報告）文を提出し、『2024 ちばニュース1月号』に掲載しました。（続編を2月号に掲載予定）
- ②新年度での海外登山（トレッキング）などについて、委員より意見を募りました。

7) 機関紙委員会（広木・安彦）

- ①『2024年ちばニュース1月号』を発行・配信し、併せて、県連ホームページに掲載をしました（ホームページ担当の協力で）。
- ②担当を変更予定です（広木→安彦）。
- ③『ちばニュース』への投稿をお願いします（毎月20日を目処に安彦まで）。
 - ・各会の行事・山行報告、表紙用写真などをお待ちしています。
 - ・各委員会の予定（会合、行事など）をお待ちしています。
 - ・投稿書式：A4、MS明朝、12ポイント、上下左右余白各25mm

4. 役員会からの連絡（野田）

1) 具志堅副理事長辞任 個人的な事情により12月末に急に辞任しました。

9月から12月末までの僅か4ヶ月間でした。辞任を了承します。

2) 来年3月総会の準備

- ・日 程：2024年3月2日（土）
- ・開催場所：船橋市塚田公民館（東武野田線塚田駅徒歩5分）
- ・当日予定：10:00～12:00 理事会（総会直前打合せ）、昼食

12:00～12:20 会場設営

12:20～13:00 総会受付開始

13:00～18:00 総会（会場を 18:00 まで予約→片付け必要）

・参加者：各会代議員、理事、役員、傍聴者（90 人程度想定）

・総会の今後の主なスケジュール

1 月末 総会資料・総会招集案内のメール発信（各会代表、理事、役員）

質問書作成依頼（2/13 提出締切）、代議員選出依頼（2/15 提出締切）

2 月 15 日（木）理事会で総会資料最終確認・承認 → 印刷手配

3 月 2 日（土）総会（受付で参加者に議案書配布）

3) 2024 年度県連役員の選出

2024 年度は総会年ですので、役員の改選年になります。

特に、現在空席の**副理事長、事務局長、会計**（交代）の選出をお願いします。

・任期：総会から総会まで 2 年（現実には 2 期 4 年～3 期 6 年？）

・役員リスト

役 職	第 56 期・57 期			第 58 期・59 期 提 案
	氏 名	所属会	状況	
顧 問	空席	空席		空 席
会 長	広木 国昭	ちば山の会	退任	
副会長	空席			
理事長	野田 久生	かがりび山の会	継続	野田 久生
副理事長	鶴田 秀雄	ちば山の会	退任	
	具志堅 浩俊	松戸山の会	退任	
事務局-1	空席			
事務局-2	空席			
会 計-1	小林 康男	まつど山翠会	退任	
会 計-2	空席			
全国連				
副理事長	石川 昌	船橋勤労者山の会	継続	石川 昌
理事	山本 尚徳	かがりび山の会	継続	山本 尚徳
基金運営委員	鶴田 秀雄	ちば山の会	退任	

5. 全国連からの情報展開（野田） 10 月 29 日 各会理事にメール配信済み

1) 第 36 回（2024 年度）総会

2024 年 2 月 17 日（土）～18 日（日） ホテルコンチネンタル府中

千葉県連 代議員 3 人（1 月 31 日までに申請）

野田、安彦参加予定、

もう一人理事よりどなたか参加をお願いします。→菅井参加（編集子追記）

6. 各会理事からの活動状況報告

当月の担当会：まつど遠足クラブ（欠席）、まつど山翠会（欠席）、らんたん（欠席）

・ 民医連（戸石理事）

病院の中での勤務が多いため、コロナ禍では殆ど活動ができなかった。

一度休止すると再活動するのが難しい…と実感している。

7. 全国連理事からの連絡・情報提供等

①石川 昌 副理事長（船橋勤労者山の会） 欠席の為なし

②山本 尚徳 理事（かがりび山の会） 欠席の為なし

8. その他協議・連絡事項

1) 2024 年度理事会予定

2 月理事会 2 月 15 日（木）船橋市西部公民館 2 階会議室

総会の準備についての協議が主です。久々の対面です。参加をお願いします。

2) 千葉県山岳・スポーツクライミング協会（CMSCA）からの情報

（12 月理事会で説明済み）

『第 59 回全日本登山大会千葉大会：2 月 17 日（土）～18 日（日）』の案内が届いています。参加できそうな会がありましたら連絡をお願いします。

参加制約はありません。登山参加費 5000 円

詳細は HP 参照：登山参加は申込必要（多少遅れても構いませんとのこと。）

イベント会場見学（旧金谷小学校）のみは無料、ぜひとも来てください。

（野田：CMSCA 岩崎氏 TEL 確認）

3) 能登半島地震災害支援（全国連からの連絡対応）

・ 支援は、各会対応をお願いします。当面の集約は 2/16 です。

・ 各会の支援の情報などを役員会に提供をお願いします。→ 理事会で報告

・ 廣木会長：

『東日本大震災（2011 年 3 月 11 日）』の際は、全国連からの連絡前に対応した。

現地に入り支援すると同時に、NPO 法人を立ち上げ継続支援をした。

しかし、能登の場合は事情が異なる。

今後の全国連の情報源を基に活動していくことになる。

<質疑応答>

・ 2/16 以降の対応は？

→ 今後も引き続きやっていくのでお願いします。

現時点では、県連としての支援金送付は行わない。

・ 銀行振込時に内容は分かるか？ → 全国連に問い合わせする（野田）。

※全国連より「振り込み後メール連絡をお願いします」と連絡あり。（編集子追記）

以上

2024 年 1 月 16 日（火）『富山表登山道』復興作業報告

ハイキング委員会委員長 田中康男（ふわくハイキングサークル）

房総復興 PJ 活動の一環として、富山の表登山道の整備を行いました。昨年 11 月の県連合同ハイク時に登山道に材木が散乱して歩きにくかったのを、それを片付ける目的で行きました。現状は随分整理されており、実際の作業は少ないものになりました。

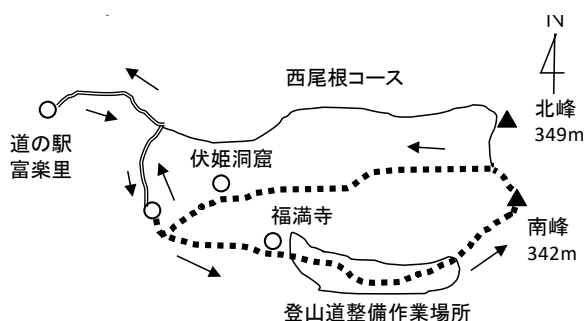
参加者 3 名： 田中（ふわく HC）車、羽鳥（東葛）バス、野田（かがりび）車

道の駅富楽里集合 9:00⇒登山口 P 発 9:30⇒福満寺⇒登山道の整備（材木等片付け）⇒富山南峰 10:30⇒下山路分岐（一休み）11:00⇒伏姫下山ルート残材片付け⇒伏姫籠穴見物 12:00-12:30⇒登山口 P⇒道の駅富楽里着 13:00（解散）

道の駅富楽里に 3 人集合し、登山口近くの P まで車で行く。去年 11 月時は表登山道にかなりの材木が散乱して歩きにくかったが、今回は随分整理されていた。そのため登山道の整備も残りの材木の撤去程度であまり手間はかからなかった。

伏姫下山コースは以前通れなかったがその後整備され通れるようになったので、伏姫コースを下山した。ロープを使わないと下れない個所もあるが、整備されており多くの登山者が利用しているようであった。

登山道は定期的に整備する必要がある、今後も整備活動を行うようにしたい。



福満寺コース登山路の材木の片付け



伏姫籠穴コース 登山路の材木の片付け



福満寺コース登山路の材木の片付け



『房総の山復興プロジェクト』とは…

2019年秋の台風15号と19号により、房総半島の山々は甚大な被害を受けました。その山々の復興を目指し、千葉県内の3山岳団体がプロジェクトを立ち上げ、登山道などの復旧活動などを展開しています。一昨年2022年8月11日（山の日）には、『田中陽希』氏を招き、『房総の山復興山の日記念講演会』を開催し、この復旧活動を紹介し、房総の山の更なる復興と安全登山を訴えました。労山としては具体的な復旧活動の取り組みは不十分ですが、今後『房総の山50選』の山々を中心に登山道整備などを進めていきたいと考えています。是非、多くの会員の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。3団体は、「千葉県山岳・スポーツクライミング協会」、「日本山岳会千葉支部」、「千葉県勤労者山岳連盟」です。（編集子）

2024 年「房総ハイキング」JR 浪花～御宿に参加して

ハイキング委員会（東葛山の会）羽鳥健一郎

日時：1 月 27 日（土）現地集合、現地解散（日帰り） 天気：快晴

参加者：50 名（8 会）

らんたん山の会 2 名、岳人あびこ 10 名、かがりび山の会 4 名、東葛山の会 10 名
こまくさハイキングクラブ 13 名、松戸山の会 5 名、ちば山の会 3 名、
ふわくハイキングサークル 3 名

コース&時間：歩程：約 4 時間 45 分（休憩含む）

浪花駅前 8:45…八幡神社参拝…岩船港入口…岩船地藏尊…釣師海岸…瓢箪堰…
尾根道（オーシャントレイルコース）…11:30 小浦海岸（昼食）12:00…
…メキシコ記念塔入口…記念塔…岩和田海岸…月の沙漠海岸…13:30 御宿駅
御宿 14:08—上総一ノ宮—蘇我—船橋—16:17 鎌ヶ谷

天気に恵まれ風はあるものの温かな陽ざしの中でのハイキングとなりました。

JR 浪花 8:24 大勢の参加者が到着し既に車で着いていた田中ハイキング委員長と合流。

田中委員長と、野田理事長の挨拶のあと 8 会 50 名は会ごとに出発しました。

八幡神社で安全祈願を済ませ「岩船地藏尊」を目指しました。道端には水仙の良い香りが漂う中を賑やかな歩きが続きました。



岩船港



岩船地藏尊

日本三大地蔵尊と言われ太平洋を望む「岩船地藏尊」や「釣師海岸」の景観は外房一と言われるだけあって見事でした。

その後、瓢箪堰からトレイルコースにもなっている尾根道を歩き「小浦海岸」へ下りました。この箇所は「首都圏自然歩道：千葉県 17」から外れており今回のハイライトでもありました。

「小浦海岸」は引潮で砂浜も広がっており大勢が会ごとに太平洋の潮風を受けながらゆったりと昼食がとれました。昼食後は会ごとの写真撮影会が始まりました。



小浦海岸

暫し休憩後、記念碑の立つ丘を下り「岩和田海岸」から「月の沙漠」へ。

『月の沙漠』を口遊んだり写真を撮ったり沙漠歩きも楽しめました。



月の沙漠



尾根道

ハイキングも後半となり「メキシコ記念塔」まで登りました。太平洋の大きさを実感する眺めでした。

記念塔は海難事故への日本国の対応とその後続いている日本、スペイン、メキシコの交流の歴史を伝える場所でした。



メキシコ記念塔

事故もなく予定より 30 分程早く御宿駅に到着しました。

参加者の皆さんお疲れ様でした。

「砂漠」？ それとも、「沙漠」？
御宿の記念像では、「沙漠」が用いられています。

県連エベレスト街道トレッキング 20 日間コース

山の会らんたん 林 孝和

10 月 25 日 7:30 成田空港 T2 に集合。10:30 ネパール航空の直行便 RA434 で出発。15:30 カトマンズ空港着。空港で案内役の Wonders Adventure CEO 中山岳史氏や現地案内人と出会い、タメル地区の Fuji ホテルへチェックイン。レンタル品のダッフルバッグ、厳冬期用シュラフ、ダウンジャケット、大容量バッテリーを受け取る。その後、街で現地通貨ルピーへ両替、携帯の SIM カードを購入し、手頃な日本料理店桃太郎で日本料理をいただく。



10 月 26 日 翌朝、ホテルを 5 時半頃に出発し、カトマンズ空港より空路にてルクラ (2,840m) へ約 30 分。ルクラにて朝食後、8:50 ドウドゥ・コシ川沿いの道をモンジョ (2,830m) に向けトレッキング開始(約 5 時間)。道中では、仏の「身口意」の象徴のうち、「口の象徴」を回転する筒に収納したマニ車や、チベット仏教の祈りの形式として、観音菩薩の 6 音節のマントラが刻まれたマニ石を多く見かけた。またエベレスト街道では車が通れないため、物資の運搬は動物および人によるのみであり、ゾッキョと呼ばれる牛とヤクの雑種による荷役に数多く出会った。ゾッキョと出会うと人は山側に避けるのがルールで、谷川に避けると谷へ突き落させられることもあるとか。ルクラからはまずパクディンまで 230m ほど下り 11:30 昼食、次にモンジョまで登り返す。16:20 Monjo guest house 到着。



10月27日 7:30 出発谷沿いの道をたどり、世界遺産エベレスト国立公園へ。高度差600mの急坂を登り、クンブエリア最大の交易町ナムチェバザール(3,440m)まで約4時間、12:00 Khumbu Resort へ到着。昼食後アーミーキャンプのエベレストの展望地へ30分。エベレストとローツェが望めた。標高差3300mのローツェ南壁がすばらしい。ナムチェへの下りの途中にはシェルパ文化博物館と、ここでしか売っていないエベレスト周辺のパノラマ山岳写真が入手できる写真家 Lhakpa Sonam 氏の Sonam Photography に立ち寄り大型ポスターを購入した。その後、ナムチェの街を散策。



10月28日 朝食後、7:30 出発。8:40 Sagarmatha Next 博物館 3775m 着。エベレスト登頂の3D映像をVRで見る。10:00 シャンボチェの丘に改築した日本人オーナーのロッジ「ヒマラヤ山荘」着。この辺りからヒマラヤのヤクも見られるようになる。荷物をデポして、11:00 ホテルエベレストビュー 3880m 着。エベレスト 8848m、ヌプツェ 7,861m、アマダブラム 6812mの絶景を観ながらコーヒー等を飲んだ後、シェルパ族の故郷と言われるクムジュン村 3,780m まで下り 12:15 昼食。イエティの頭皮があるというクムジュン寺院と Sir Edmund Hillary Visitor Center を訪れる。その後、ヒマラヤ山荘まで登り返し夕食。

10月29日 朝食後、11日間コースの10名と別れ、20日間コースの7名はドウドウ・コシ川の大きな谷に下り、川を渡る吊り橋近くのロッジで昼食。600mの急坂を登り返し、13:30 3870mのテンボチェ到着、ここには世界で初めてネパール側とチベット側からエベレスト登頂を果たした加藤保男さんの慰霊碑があった。



3867m のテンボチェ寺院を参拝。ここには釈迦の足跡なるものがあった。テンボチェ寺院ではちょうどチベット仏教の祭典マニリンドウが行われていた。ディンボチェツボイラマにもお会いすることができた。その後、デボチェまで下りエベレストとアマダブラムを一望する Rivendell Lodge に宿泊。

10 月 30 日 朝起きるとエベレスト (8848m)、ローツェ (8516m)、アマダブラム (6,856m) が朝日に照らされ美しい。朝食後、7:30 3720m のロッジを出発。シャクナゲの樹林帯を通り 8:04 ドウドウ・コシ川の左岸へ渡って 8:30 3830m の仏舎利塔とアマダブラムが見える写真スポットで休憩。12:30 Shomare 村の Pasang Lodge 4070m で昼食。14:00 ディンボチェの Hotel Tasi Delek 4305m へ到着。ここは最後の村で、これより高地には村は無くロッジだけとなる。ディンボチェでは高所順応のために連泊となる。



10 月 31 日 朝起きると、タボチェ 6495m、チョラツェ 6440m、アラカンツェ 6423m が月と共に観れて美しい。この日は高所順応日のため、8000m 峰の登山経験があり一番元気な H さんは、早朝に出発してチュクンリ 5550m へ登ったが、それ以外の全員は 7:30 出発で近くのナガルゾンピーク (ナンカルツァン峰) 5073m をめざす。8:20 4400m 付近の仏舎利塔 Dingboche Stupa の写真スポットでタボチェ 6495m をバックにタルチョも入れて写真撮影。タルチョは祈願旗で、五色の順番は青・白・赤・緑・黄の順に決まっており、それぞれが天・風・火・水・地、すなわち五大を表現する。風にふかれる度にお経を読んでいるのと同じ意味があるという。



9:40 4600m 付近まで登って休憩、最も若いOさんは5073mをめざすが、それ以外はあまり無理はせずに周りの山々の絶景を観ながら1時間ほど日光浴をしながら高所順応をして下山。下山後はCafe 4410というヒマラヤの山奥とは思えない洒落たカフェで本格的なピザをいただく。

11月1日 朝食後、7:15 ロッジを出発。「エベレスト街道で最も景色の良いルートの一つ」と呼ばれるツォラ川の大きな谷右岸上方の台地状の広く緩やかな坂道を登って行く。後ろにはアマダブラムからクスムカングルまでの大パノラマ。左手下方にはペリチェの村 4370mが見える。ここには病院があり、毎朝、高地から高山病患者がヘリで運ばれてくる。

谷の向こう側にはタボチェ 6495m、チョラツェ 6440m、アラカンツェ 6423mが聳え立つ。10:00 にトゥクラの橋 4600m を渡り 10:30 Kala Pathar Lodge で昼食。昼食後は4800mの慰霊碑の丘まで急登が続く。ここにはスコットフィッシャーなどのエベレストで亡くなった登山家たちの脾が、ヒマラヤの絶景を前に佇んでいます。

13:10 ロブチェのOxygen Altitude Home 4930mへ到着。夕暮れ時には残照のヌプツェが美しい。5000mに近いロブチェから上では気温も低く、ほとんどの人がKhumbu cough クーンブ咳と呼ばれる咳が止まらなくなり悩まされます。

11月2日 朝食後、6:15 ロッジを出発。9時頃ゴラクシェプ到着。ロッジに荷物をデポして荷物を軽くしてからエベレストBC（ベースキャンプ）5364mへ向かう。道中右手には見事なヒマラヤひだを有するヌプツェ 7855mの雄姿がずっと拝める。その先ではクーンブツェ 6636m、チャンツェ 7543m、ロー・ラ 6006mなどが現れる。最後にクーンブ氷河に降りて 12:00 参加者7名全員がエベレストBC到着。記念撮影の後、ゴラクシェプのブッダロッジ 5160mへ戻る。高所順応のチェックと高山病対策のため毎日朝夕2回全員の血中酸素飽和度SpO2を測定していたが、70歳以上の1名のSpO2が危険値を下回ったために診療所で診てもらい、酸素吸入をしてもらうこととなる。



11月3日 翌日、不調の2名のうち1名は Expedition 用の酸素ポンペを背負って酸素を吸いながらカラパタール 5560m に挑戦することとなる。6:30 頃ロッジを出発。10 時少し前に 7 名全員が登頂に成功した。頂上からは、エベレスト 8466m やプモリ 7161m、クーンブ氷河など 360 度見渡す限りの大展望が望めました。その後、ロブチェへ下山 15:05 ロッジ到着。



11月4日 SpO2 が低い2名のうち1名は SpO2 が依然として危険値であるため、病院があるペリチェの村 4370m までガイドのパサンさんと下ることになった。他の7名は当初の予定ではヘリでゴーキョまで 20 分ほどで飛ぶ予定であったが、出発2週間前にヘリの運行ルールが変わったということで、急遽3日かけてチョラ峠を歩いて超えることになり、初日はゾンラまでの行程となる。ゾンラまでまでは比較的短く楽な行程であるため朝はゆっくりと8時少し前に出発。ロブチェから南に下り、エベレストメモリアル付近からゴーキョ方面の西北へと入って行く。すぐに左手にチョラ湖とその奥にはタボチェ 6495m とチョラツェ 6440m が聳え立つ。ゆったりとした巻道を歩きゾンラの Meson Sherpa へはお昼前の 11:25 に到着した。

11月5日 のチョラパス越えと **11月6日** のゴジュンバ氷河は1月号で既報。

11月7日 体調不良のAさんとコロナ陽性の自分は休養のため近くの散策にとどめ、他のメンバーは Gokyo 5th Lake まで往復する。

11月8日 ゴーキョピーク登頂の日であるが、Aさんと自分は9合目まで馬に乗って登ることとなった。朝食後、本隊から約1時間遅れて7:57 ロッジを出発。8合目付近で本隊を追い抜き10時前に5280m に到着。本隊の到着を待ち、馬とみんなで記念撮影、馬はその後下山。最後の岩場を登って10:30 に5340m のゴーキョピーク登頂。山頂付近の岩石はガーネットを含む柘榴石片麻岩であった。山頂からはエベレスト、ローツェ、マカルー、チョ・オユーの4つの8,000m 峰を含む壮大なパノラマを堪能できた。全員で記念撮影をして11時過ぎに下山開始。お昼過ぎにロッジへ戻り昼食となった。



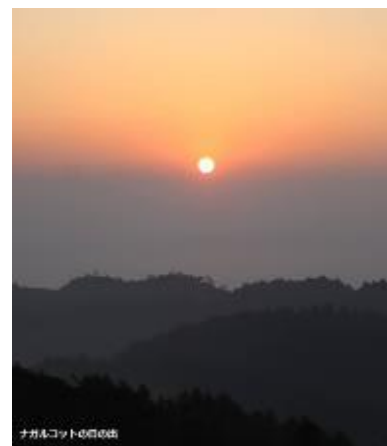
11月9日 9:40 ころにヘリコプターが到着し、1陣と2陣に分かれてルクラまでのヘリで移動する。ヘリでの飛行時間はわずか20分程度であったが、上空からヒマラヤの山々の景観や谷間の暮らしを鳥瞰して楽しむことができた。ルクラではロブチェから高山病のためにペリチェまで下山したMさんとガイドのパサンさんに再会できた。Mさんは体調が思わしくなくルクラまで馬で下山し、病院に行き肺水腫と診断されたようだ。



11月10日 ルクラからマンタレーまでのプロペラ機に乗る順番を朝から待たされたが、なかなか回ってこずに、15:30ようやく搭乗できた。マンタレーまでの飛行時間はわずか20分程度で、16:00ようやくマンタレーを出発してナガルコットへ向かう。道路は舗装はしてあるものの谷あいの細い道路でナガルコットまでは車で約5時間の行程である。さらに車はハイエースではなく電気自動車であったために途中バッテリーの充電のために1時間ほど停車した。バクタプルでタクシーでカトマンズへ向かうMさんとガイドのパサンさんを降ろし、夜9時半頃にナガルコットのPeaceful Cottageへようやく到着した。Cottage直前の道は未舗装でまるでバギー用のダートのようなようであった。



11月11日 朝食前に車で近くのNagarkot Geodic Survey Towerへ向かう。着くと既に多くの人が集まり、鉄塔の展望台へ登っていた。強度的に少し不安がある鉄塔ではあったが、我々も登って周りの景色を見ながら日の出を待つ。6:23日の出を迎える。朝日に照らされた三角錐の峰ランタンリルン 7234mなどが美しい。



その後ロッジへ帰って朝食。朝食後 8:20 出発、9:00 世界遺産の古都バクタプル到着。

まずズーズー・ダウ/Juju Dhau という有名なヨーグルトを味わう。ズーズーが王様、ダウはヨーグルトの意味で、王様のヨーグルト！水牛のミルクで作るというヨーグルトは、濃厚で確かに美味しい。

次に 9:30 ボダナートの巨大仏塔ストゥーパ訪問。ここは世界のチベット仏教の中心地であり、中心にはブッダのお骨（仏舎利）が埋められている。直径 27m の石造りドームからなり、その上には四方を見渡すブッダの知恵の目が描かれている。仏塔の周囲には仏塔を取り囲むように曼荼羅やシンギングボウル、真鍮アンティーク類などのネパール特有の土産物店が立ち並び賑わっている。



ボダナートの巨大仏塔ストゥーパ



バシュパティナート寺院のアリヤガートと呼ばれる火葬場

11:20 シヴァ神を祭るネパール最大のヒンドゥー教寺院であるバシュパティナート寺院を訪問する。ここは 1500 年以上も昔から巡礼の地となっており、1979 年に世界遺産に登録されている。寺が面しているバグマティ川はランタン山に源を発し、ガンジス川へと流れる聖なる川である。川辺には火葬台を複数備えるアーリヤガートと呼ばれる火葬場がある。多くの人々が親族の遺体を聖なる川の水で清め、花で飾って茶毘に付し、その灰を川に流して故人を葬る。ヒンドゥー教では、こうして生前に犯した罪が洗い流され、来世へと輪廻するとされている。ヒンドゥー教では猿の神様のひとりとして大切に保護しているために寺院には多くの猿がいます。



サリグラムのアンモナイト化石

また帰り道には土産屋さんが並んでいて、私はアンナプルナ山塊西側カリ・ガンダキ流域のジュラ紀黒色頁岩中に産出するサリグラムと呼ばれるアンモナイトを含むノジュールをお土産に購入しました。Katrolliceras matsumotoi という種で、ちなみに命名者の松本達郎先生は天皇陛下にも御進講されたアンモナイト研究の世界的権威で自分の大学時代の恩師でもあり懐かしかった。

12:20 にはヒマラヤ そば処という蕎麦屋さんで本格的な信州蕎麦をいただきました。

午後は 13:20 にパタンを訪問しました。パタンはカトマンズ盆地にマッラ 3 王国があった時代に首都として栄えた古都で、ダルバール旧王宮広場には旧王宮やたくさんの寺院があります。2015 年 4 月にネパール全土を襲ったマグニチュード 7.8 の大地震によって、数多くの歴史的建造物を破壊されました。ダルバール広場でも、ジャガナラヤン



寺院とハリ・シャンカール寺院が大きな被害を受けましたが、修復作業が進んでいました。パタンには NEPAL GANESHA という池原玲子さんという日本人女性が経営しているお土産品店があって、素敵なお土産品が多かったので土産品を購入しました。夜はタメルの Gokarna House という民族舞踊レストランでネパリダンスを観ながらネパール料理をいただきました。

11 月 12 日 終日フリーなので午前中はタメル地区のホテル周辺でお買い物。12:00 までにホテルをチェックアウトして、昼食は桃太郎で日本食。午後はホテルのロビーなどで暇つぶし。夕方にはネパールで最も美しいお祭りである光の祭りティハールが開催されていました。各お店や家々では、家の前をネパールで神聖な花とされるサヤパトリ（マリーゴールド）などの花びらと文様で飾り、灯火を灯して、光で“幸せの神・ラクシュミ”を呼び込みます。夕食はダルバートの名店 Thakali Kitchen でチベット交易を営んできた商業民族タカリ族の伝統的ダルバート、タカリカナセットをいただく。ホテルを 20 時に出発しカトマンズ空港へ。空港は夜中だということに多くの人が詰めかけて満員状態。直行便にて 22:30 カトマンズを出発。



ホテルを 20 時に出発しカトマンズ空港へ。空港は夜中だということに多くの人が詰めかけて満員状態。直行便にて 22:30 カトマンズを出発。

11 月 13 日 朝 8:30 に成田空港到着、解散となる。

先月号に引き続き、林さんから 20 日間を通しての感想（報告）文をいただきましたので紹介します。彼とは、最初のカトマンズでの「フジホテル」以外の宿泊でズ〜と同室でした。夜中でも時間に関係なく咳が出る私のために、睡眠を十分にとれなかったのでは…と思います。ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございませんでした。（編集子）

ネパールトレッキング 20 日間コース 過酷な『チョラ峠』越え

東葛山の会 安彦 秀夫

昨年秋に実施した『ネパールトレッキング』の『20 日間コースのキャッチフレーズ』を『5000m 峰 2 座山頂より世界最高峰エベレストを望む』とし、日数と体力（難易度）を考え、2 座の登山口間にある『チョラ峠』を歩かずに、僅か 20 分前後でヘリコプター移動する…という文明の利器を最大限に利用した企画としました。

しかし、日本出発間際になり、『この秋よりヘリコプターのフライト規則が変更になり、当初のヘリコプター利用ができなくなった…』旨の連絡が、一足先に現地入りしているトレッキングの手配をお願いしている株式会社ワンダーズアドベンチャーの中山さんからありました。聞くとところによると『ルクラ発着のフライトのみで、それ以外の区間でのフライトはできない…』ということになり、日程の再検討を余儀なくされました。

帰国の日程（11 月 12 日夜カトマンズ発）が決まっていることと、当初の予定通り『5000m 峰 2 座登頂』は是非とも実現したかったことより、『チョラ峠を歩いて越えてゴークョへ行き、予備日を含めて 3 日間滞在し、ゴークョピークに登頂した後、ヘリコプターでルクラに飛ぶ…』という日程に変更しました。

この日程（ルート）変更、特に『チョラ峠越え』に関しては、参加者から色々な意見・不安などがありましたが、中山さんから懇切丁寧な説明をいただき、最終的には『よし！皆で行こう！』ということになりました。

私個人の今回のネパールトレッキングの感想（思い）を紹介します。

<1> 登山靴新調

雪渓を歩きチョラ峠越えをすることになり、履きなれた登山靴では靴底のすり減り具合に不安があったので買い替えることにしました。

とは言っても、出発まで 10 日間しかなく、これまで履いていた靴と同じメーカーで同じタイプの軽登山靴を探しました。しかし、以前に登山靴を購入した店では店頭には置いていないことが分かりました。インターネットで調べ、「好日山荘土浦店」にあることが分かり、先ずは電話をして店頭には置いてあることを確認した後、直ぐ行き、何とか気に入った軽登山靴を購入することができました。

後は、履きならすことが必要でしたが、実際に山に行く時間を取れず、利根川や江戸川の堤防で登ったり下ったりしました。特に違和感はなかったので一安心しました。

実際の現地での歩きでも特に問題になることはありませんでした。

<2> エベレストベースキャンプ

11 日間コースの人達と別れ、更に奥へと入りました。その後、なぜか咳が出始め、日ごとに酷くなり、睡眠が十分にとれなくなってきました。

『エベレストベースキャンプ』に7名全員が揃って行く予定でしたが、体力の消耗があり、一緒に行くことを諦めました。ところが、現地ガイドのフラさんから「途中までも行ってみよう…」と言われ、「それでは、行ける所までは行ってみよう…」と、先行のメンバーを追いました。

ゆっくりペースでしたが思った以上に歩け、先行パーティの姿を目的地の手前で見ることができ、何とか追いつき（私を見て、皆さんが歩みを遅くしてくれた…と思います）、『EVEREST BASE CAMP』と書かれた『大きな岩』に皆と一緒に着くことができました。岩に登り全員の集合写真に納まることができました嬉しかったです。

<3> カラパタール登頂

今回の大きな目標の一つである 5000m 峰への最初の挑戦なので、元気よくロッジを出発しました。「ヘリコプターが当初の予定通り利用出来たら、11 日間コースの人たちは何処に降りたのだろうか…」などと話しながら登り続けました。しかし、山頂に近づくにつれ歩みは極端に遅くなり、山頂に既に着いている他のメンバーが見える



所まで来たので「もう少し…！」と思うのですが足はなかなか動いてくれなくなりました。見かねた中山さんが、他のメンバーの酸素ボンベを外し私に着けてくれ何とか山頂に辿り着くことができました。

集合写真を撮った後、ゆっくり山頂からの大展望を楽しみたかったのですが、下山して次のロッジまで移動しなければならず、早々に下山しました。でも、肝心のエベレストを大きく見ることができ感動しました。

ロブチェのロッジまで下り、参加者全員の体調を診て、その後の『チョラ峠越え』について話し合いました。その結果、極端に体調の悪い1名が現地ガイドとポーターと一緒に一旦下山し様子を見ることになりました。結果的には、体調が回復せず、そのままルクラまで下ることになりました。

私は、体調が決して良い状態ではなかったのですが、何とか皆さんと一緒に『チョラ峠越え』のために、翌日、次のゾンラにあるロッジに向かいました。

<4> チョラ峠越え

これまでの遅すぎるペースと体調を考えて、他のメンバーよりも早く（5時）、ロッジを中山さんともう一人のメンバーの3人で出発しました。

ヘッドランプの明かりを頼りに、中山さんの後を歩きました。細い小川や湿地は凍っており、滑らないように、水に落ちないように注意を払いな



がらゆっくりゆっくり進みました。次第に明るくなると同時に傾斜も出てきて歩きのペースは落ちてきました。あまりにも遅いペースなので、中山さんにストックでひっぱり上げられるように歩きました。立ち止まる頻度が増えてきました。

振り返ると、遅く出発したはずの他のメンバーが、はるか遠くの下に見えるではありませんか…！なのに、間もなく追いつかれました。急な岩場を登り切って、全員で小休止。その後も、私のノロノロ歩きが続きました。

やっと 10 時前に雪渓に着き、6 本爪アイゼンを装着しようとするのですが、疲れすぎていて思うようにできませんでした。見かねた中山さんが全面的に手伝ってくれました。というか、装着してもらった…という方が正しいですね。



雪渓を相変わらずゆっくりゆっくり、中山さんに引っ張られながら亀のように歩みを進めました。先を見上げても一向に雪渓の上端が見えませんが、「引き返せるものなら引き返したい…」という心境でしたが、「何が何でももう一つの 5000m 峰山頂に立ち、エベレストを望みたい…」という一心で歩きました。

やっと雪渓を登り切り、アイゼンを外そうとするのですが、自分では上手くできず、中山さんに再度全面的に手伝ってもらいました。

再び急な岩場を登り、やっと 12 時に『チョラ峠』に着きました。

後は下るだけなので幾分ホッとして岩に腰を下ろし、先ほどまで歩いてきた雪渓や周囲の山々を眺めながら塩羊糞などを口に入れました。ゆっくりしたかったのですが、先のことを考えるとそれもできず下ることにしました。



チョラ峠にある大きな岩に「5361M」と落書きあり

急な崖を慎重に下りました。「もう少しテンポよく下れるのでは…」と思っていたのですが、ペースは相変わらずのろく、時々休まなければなりませんでした。でも、何とか急斜面を下りきりホッとしました。

「この先に危険なところはなく、2 つの緩い尾根を越えると、その後は谷筋をロッジまで下る 1 本道…」ということで、同行のメンバーには先に行ってもらうことになり、中山さんと私の 2 人きりの歩きになりました。

チョットとした登りでも極端に歩くペースが落ちてしまいました。数歩進んでは一休み…というようなペースでした。教わった呼吸法を意識して行うのですが、なかなか歩きは改善されません。中山さんからは何度も呼吸法について言われ、その都度、意識して呼吸するのですが、一向に楽にならず足を前に出すことが大義になり、ついつい立ち止まることが多くなりました。

「ゆっくりゆっくりで良いから休まずに歩いた方が良い…」と何度も言われ、頭で

は分かっているのですが、身体が反応してくれませんでした。中山さんが私の歩きを見て、「エベレストの時のことを思い出した…」というではありませんか！「今、私は8000m峰を歩いているような状況なのか…」と変に納得（？）しながら、辛い歩みを続けました。

あまりにも遅いことを心配した現地ガイドのフラさんとポーターのビモチャンさんの2人が食事（昼食？）を持ってきてくれました。早速食べましたが、余りにも疲れているので食が進みませんでした。でも、食べないことには歩けなくなるので無理やり食べました（15：35-15：50）。

幾分元気になったような気がして再び歩きだし、やっと2つ目の尾根に辿り着きました（16：15）。「この先は谷沿いに下るだけ…」と聞いていたので、まともに歩けるのでは…と期待していたのですが、やはり足取りは変わりそうもありませんでした。

それを見て（感じて）、ガイドのフラさんが「私を背負ってみようか…」と言うではありませんか…？！

「アビコさん、体重何キロありますか？」

「80キロちょっとかな…」（実は85kgなのですが、少なめに言いました。）

現地の人荷物を運ぶ際に額にかけて使う帯紐のようなものを取り出し、それに座るような姿勢で彼の背中に負ぶさりました。傾斜は緩やかな下りで、かなり早い足取りで進むではありませんか！これまでの歩みより格段に速くなりました。5～6分ほど歩いた後、ポーターのビモチャンさんに代わり、更に数分進みました。その後再度、フラさんに代わり数分。結局20分弱ほど背負ってもらいました。振り返ると先ほどの尾根ははるか遠くになり見えませんでした。その後、谷沿いをゆっくりゆっくり下りました。相変わらずペースは遅く、速くはなりませんでした。

すると、下からポーターの2人が迎えに来てくれました。次第に暗くなり、ポーターがヘッドランプで私の足元を照らしてくれ、やっとの思いで皆が待つタンナのロッジに着くことができました（17：45）。

朝5時にゾンラのロッジを出発して13時間弱も掛かりました。コースタイムのほぼ倍の時間を要したことになります。死ぬ（？）思いで歩ききりました。

このようなのらりくらの私に対してどのような気持ちで一緒に歩いてくれたのか…中山さんには感謝あるのみです。

<5> ホース・トレッキング

翌日のゴーキョまでの移動は、急遽私のみ馬を利用することにしました。「ダイヤモンド」という8歳の雄馬に乗り、約3時間の「ホース・トレッキング」でした。急な登りや下りの際には、馬引きのロッジのオーナーが、何度も何度も私に姿勢をジェスチャーで教えてくれました。

登りでは、「前かがみになりなさい！」

下りでは、「後ろにそるようになさい！」

私も要領を覚え、言われなくとも自然と教わった姿勢を取るようになっていました。

殆ど人に会わず、馬引きと私の2人だけの静かな歩きでしたが、ドゥードゥ・コシ川を越え、ナムチェとゴーキョを結ぶ登山道に合流すると急にハイカーが増え、追い越す際やすれ違う際には被写体になることもありました。

急な登りも終わり、登山道が緩やかになる頃、突然、彼が「手綱を持つように…」と言うではありませんか…！？「えっ？ 何…？」と思いましたが、言われるままにしました。なんと、彼は馬の後ろに下がり、後を歩いているではありませんか！そして、馬は勝手に登山道をゆっくりゆっくり歩くではありませんか！私が馬を操っているような錯覚になりました。「1st レイク」そして「2nd レイク」を左に見ながら快調に進み、「3rd レイク」が見えてきました。



「これは3rd レイクですか？」
「違います。ゴーキョレイクです。」
(3rd レイクと言わずに、ゴーキョレイクと言うようです。)

やっと目的地のロッジ「ゴーキョ・リゾート」に到着しました。彼は昼食を摂り戻っていきました。私は他のメンバーの到着を食堂で今か今かと待ちました。

手を振って他のメンバーを迎えました！

翌日は、元気な4名のみが『5th レイク』を往復しました。私ともう一人のメンバーは、ロッジに残り翌日のゴーキョピーク登山に備えました。

<6> ゴーキョピーク登頂



休養したくらいでは、体力の回復は殆どしませんでした。ということで、登頂をするために私ともう一人のメンバーの2人が『馬』を利用することにしました。

他のメンバーが先にロッジを出ましたが、途中で追い越し、『8 合目』に着いて後続を待ちました。全員揃ったところで、休憩を兼ねて、一人一人馬に乗り記念写真を撮りました。

その後、相変わらずスローペースでの歩きでしたが、何とか皆の待つ大きな岩がゴロゴロしている山頂に着き、全員揃ったの集合写真に納まることができました。

これで、当初の目的の5000m峰2座の山頂に立ち、世界最高峰エベレストを望むことができ、束の間でしたが至福の時



ゴーキョピーク山頂でガッツポーズ

間となりました。

下りも相変わらずペースは速くならず、下にロッジが見えるのですが、一向に近づいてはくれませんでした。やっと下まで降りてはきたものの、ロッジまではチョッと登り返さなければならず、急に歩みが極端に遅くなってしまいました。すると、フラさんが2～3分ほど負ぶってくれました。やっとの思いでロッジに着いたのですが、椅子に座ったまましばらくじっとし、落ち着いた後、部屋に行き着替えました。

SP02 値が低いこともあり、近くの山岳診療所に行き診てもらいました。酸素吸入を1時間ほど行い、「デキサメセゾン（ステロイド薬：高山病・肺水腫治療薬）」の注射を打ち、咳止めの薬を貰って、2時間ほど滞在しロッジに戻りました。

<7> ゴーキョから下界へ

ヘリコプターで一気にルクラへ。

他のメンバーは「呼吸が楽になった…」と喜んでいるようでしたが、私にはそんな感じは全くありませんでした。咳は帰国まで一向に静まることはなく、当然、夜の眠りも不十分なままの日が続きました。

翌日のルクラからマンタレーまでの飛行機も、朝から今か今かと搭乗を待っていたのですが、結局は最終フライトでやっと飛び立つことができ、ナガルコットのホテルに着いたのは真っ暗な9時30分でした。夕食を短時間で済ませ、ベッドにもぐりこみました。



ゴーキョを飛び立つ前に
現地ガイドのフラさんと

<8> 最後に

チョラ峠越えの際の私の余りにもノロノロの歩みを見て、中山さんが、エベレストに登っている時のこと（又は、エベレスト登山者のサポートをしている時のこと）を思い出したようです。

その時も数歩進んでは止まる…という繰り返しだったようです。それで、「安彦さん、エベレスト登山しているような感じですね…。是非、このことを文章にしてください。」と言われました。「よし、書いてみよう…」と思っていたのですが、いざ書き出すと何を書いたら良いのか浮かんできません。兎に角、当時のことを思い出せないくらい歩くことのみに集中し、疲れ切っていた…と思います。

でも、いきさつだけは書いてみようと思い、今回、このような文に纏めてみました。

今回のトレッキングで多くの初体験をしました。その中でも、『咳による不十分な睡眠による体力消耗』は、帰国するまで、否、帰国してからも暫く続きました。

帰国後、『肺炎』と分かり、投薬とレントゲン検査で経過を見て、何とか2週間後

には、肺の曇りもかなり消失し、更に、あんなに酷かった咳も殆どしなくなったこともあり、医師からは、「今後は通院しなくとも問題ない…。悪くならなくて良かったですね。」という嬉しいお言葉をいただきました。大事に至らず、早めに回復できて良かった…と心底から嬉しかったですね。

これまでの海外トレッキングでは、頭痛と下痢に悩まされることが多かったのですが、その薬はたくさん準備しましたが、咳止めの薬は全く考えてもいませんでした。ということで、中山さん初め、同行の皆さんから薬を何度も分けていただき感謝しています。でも、なぜか咳は改善されることはなく、日に日に酷くなるばかりでした。なぜだったのでしょうか？既に肺炎になっていたのでしょうか？不思議です。

不思議ついでに、もう一つ分からなかったことを紹介します。
それは、ゴーキョでのことですが、体調不良なので中山さんから頂いた『コロナ検査キット』で確認したところ、トレッキング中ズ〜っと同室の人が陽性で、私は陰性でした。状態を見る限りでは、私の方がはるかに悪かったのですが…。念のため、帰国後、病院でも検査しましたが陰性でした（日にちが経っているのも当然かも…）。

このような状態の中、中山さんからは心強い励ましや説明そして適切な判断・指導をいただくことができ、当初の目的を達成することができ感謝しています。仮に、中山さんが同行していなかったらどのようになっていたであろうか…と想像するだけでぞっとします。もしかしたら大事に至っていたのでは…と思うほどです。

最後に、ツアーリーダーとしての役目を十分に果たすことができないまま、何とか表面的には大過もなく「ネパールトレッキング」を終えることができたことは、中山さんを初め、現地のガイドやポーターそして同行の皆さんの理解と励まし、協力などがあつたればこそ…と感謝しています。今回の経験を今後の海外トレッキングに生かしていきたい…と強く思っています。ありがとうございました。



ポーター3人とガイドのフラさんに感謝！
（ゴーキョ・リゾートの食堂にて）



ゴーキョピーク山頂からの
ゴーキョレイクとゴジュンバ氷河

ネパール文化を身近に感じることができるかな…？

朝日峠展望公園・小町山登山口(茨城県)

東葛山の会 安彦 秀夫

筑波山の東側にある『朝日峠展望公園～小町山～宝篋山』を、コロナ禍ということもあり一人で頻繁に通っていました。と言いますのは、地元のボランティアが次から次と新しい登山道を開拓しており、その全てを歩いてみたい…という好奇心がありました。と同時に、そのボランティアの人たちとの情報交換も楽しみでした。

ただ去年は、ネパールトレッキングに参加するために、もう少し標高差のある山を歩かねば…と考え、できる限り標高差のあるコースを探し、南麓にある『筑波山麓神郡(かんごおり) 駐車場(無料) 標高約 35m』を利用して、昨年 2023 年 6 月から 10 月に何度も筑波山に通いました。

今年 2024 年になり、まずは『筑波山神社』にネパールトレッキングから無事(?) 帰国できたことを報告に行きました(1月8日)。

そして、29日(月)に、7ヶ月ぶりに『朝日峠展望公園～小町山～宝篋山』を歩いてきました。その際に、気になる『看板』を見つけましたので紹介します。

是非、皆さんもネパールを感じに行ってみませんか？



風もなく穏やかな天候で、宝篋山山頂からは、雪化粧をした男体山、奥日光白根山、皇海山、浅間山、富士山などの日本百名山を望むことができました。勿論、筑波山は目の前に…。スカイツリーもよく見えました。

お知らせ

訪れた方から、ここに掲げてある旗は、「何か意味があるんですか」と聞かれて、説明したところ、是非多くの方に知らせ、伝えたいと言われました。

ヒマラヤの登山口ネパールでは、山頂に無事に登頂して、安全な下山を願って掲げているそうです。

このハイキングコースは、多くの方に楽しんでいただいておりますが、ネパールに掲げている旗に学んで、皆さんが安全に楽しんでほしいと願って掲げたものです。

朝日峠ハイキングコース整備ボランティア

登山道が網の目のようにありますが、鬼越尾根と宝篋山の間のルートには標識がありません。低山と侮ってはいけませんよ。また、小町山周辺では面白いネーミングの自然の芸術を楽しめますよ！

県連活動予定表

2月		
日付	曜日	県連活動予定
1	木	
2	金	
3	土	
4	日	立春
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	役員会 (ZOOM) 13:00-15:00
9	金	
10	土	
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	
14	水	
15	木	理事会(船橋市西部公民館)19:00～
16	金	
17	土	全国連盟総会
18	日	全国連盟総会
19	月	雨水
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	天皇誕生日
24	土	
25	日	
26	月	教育遭難対策委員会 (ZOOM)
27	火	
28	水	
29	木	

3月		
日付	曜日	県連活動予定
1	金	
2	土	千葉県連総会13:00-17:00
3	日	
4	月	
5	火	啓蟄
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	役員会 (ZOOM) 13:00-15:00
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	春分の日
21	木	理事会(ZOOM)19:00～21:00
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	教育遭難対策委員会 (ZOOM)
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

事故発生時の連絡先

各委員会、25日までに予定を連絡ください。

●事故一報は事故発生後1ヶ月以内に！

●全国連盟と県連教育遭難対策委員会の両方にメールまたはファクスで！

全国連盟事務局

メール： jwaf@jwaf.jp

ファクス： 03-3235-4324

県連教育遭難対策委員会

メール： itou2385@yahoo.co.jp (伊東)

メールのみとします

連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-481509

(ゆうちょ銀行 〇一九店 口座番号0481509)

千葉県勤労者山岳連盟

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： https://www.cwaf.jp

事務所に常駐者はいません